

第11回 「(仮称)豊田市再犯防止推進計画」策定に伴う認知度及び意識調査

実施期間：12月7日（火）～12月19日（日）

回答者数：193人

【1】 再犯防止のために、犯罪をした人の立ち直りを支援することについてどう思いますか？

必要だと思う	88
どちらかといえば必要だと思う	80
どちらかといえば必要だと思わない	10
必要だとは思わない	5
わからない	10

【2】 あなたは、犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思いますか？

協力したいと思います	11
どちらかといえば協力したいと思います	46
どちらかといえば協力したいとは思わない	91
協力したいとは思わない	45
わからない	0

【3】 どのような協力をしたいと思いますか？（複数回答可）

犯罪をした人に直接会って継続的に助言や援助をする	5
協力雇用主（犯罪前歴を承知の上で雇用に協力する事業主）として、犯罪をした人を雇用する	0
更生保護施設（出所後、直ちに自立更生することが困難な人たちに対して、一定期間、宿泊場所や食事を提供する民間の施設）にお金や品物などを寄付する	9
再犯防止に関するボランティア活動に参加する	26
広報・啓発活動に参加する	20
インターネットを活用して情報を発信する	5
その他	0
わからない	11

【4】 協力したいとは思わない理由を教えてください。（複数回答可）

自分や家族の身に何か起きないか不安だから	74
犯罪をした人と、かかわりを持ちたくないから	54
犯罪をした人と、どのように接すればよいかわからないから	77
自分自身にメリットがないから	19
具体的なイメージがわからないから	43
時間的余裕がないから	38
興味が無いから	2
犯罪をした人に支援などするべきではないから	8
その他	10
わからない	1

その他

その人の罪をおかした理由による
犯罪を犯す人は再犯する可能性が高いため、巻き込まれたくはありません。
再発防止させる事ができるか？
専門家が取り組むべき領域。
自分のことだけで精一杯
具体的にどのような活動が支援に繋がるのかイメージできない。また、協力出来たとしても、その人が犯した犯罪の程度にもよるから。
犯罪をする人はされた人の気持ちを考えていない。自分勝手な人間にはイライラする。
信用ができない。裏切られる怖さ。
責任が付いてくると思うので、専門的な知識や経済的な問題がある。
犯罪をした人本人が、本心で矯正する気持ちがあるのか？

【5】再犯防止のためには、具体的にどのようなことが必要だと思いますか？（複数回答可）

刑事司法関係機関（刑務所、少年院、保護観察所等）による一人ひとりの問題性に応じた、きめ細かな指導や支援を充実する	107
仕事と住居を確保して安定した生活基盤を築かせる	100
犯罪をした高齢者などに対して、福祉制度の利用を促進する	34
被害者の置かれた状況や心情を理解させる	89
当事者以外の市民等が再犯防止について理解し、見守る	32
その他	11
わからない	16

その他

犯罪を犯してしまった人の中にはやむを得ずそうしてしまった人もいと思うけれども大半は悪い心を持って犯した事件だと思う。そういう人はどれだけこちらが親身になっても、伝わらずこちらばかりの気苦労が増える。そんな犯罪者のために税金を使うのも腹立たしい。被害者の立場に立つことができないであろうし、再犯の可能性も大きい。だからこういう人たちは病気だと思うから病気の治療したほうが良いと思う。
特になし
罰を厳しくする
犯罪を起こす人は必ず孤独な人だと思うので、コミュニケーションが苦手な人にも相談できる相手を確保することと存在を理解してもらうこと
特になし
一律ではなく個々への対応でなければ意味がなく、お金も無駄になると考えます。
刑事司法関係機関（刑務所、少年院、保護観察所等）による対応に、一般市民の意見や見方を反映する。
刑務所など出所した後の行動をある程度の期間きちんと把握し見守るだけでなく監視する為の行動報告も必要だと思う
性犯罪を犯す人には薬物治療がやむを得ないと思います。
罪を犯した人の家族を助けていくこと
どうして犯罪を犯したのか何度もフィードバックさせる。どうすればよかったのか考えさせる。

【6】再犯防止に関して広く理解や関心を深めるために、市は何をすべきだと思いますか？

誰もが参加できる講習会などのシンポジウムを充実する	22
広報とよたなどでの紙媒体で情報発信する	46
ホームページやSNSなどのインターネットでの情報発信を充実する	20
パンフレットやポスターを増やす	9
再犯防止に協力する民間協力者に対する表彰の機会を増やす	22
学校の授業で取り上げるよう働きかける	39
その他	10
わからない	25

その他

定期的なボランティア活動への参加を促す
再犯防止の理解を深めると言う事は、犯罪を犯しても社会に受け入れてもらえると言うのが安易な気持ちで広がって欲しくない。
犯罪者の個人情報を公開する。再犯の危険があるなら犯罪者が今どこに住んでいるのか知っている権利がある
ドラマで保護司の人が出てくると具体的によくわかる。からテレビなどで紹介したり実際に協力している人のことを取り上げたりしたらいいと思う。
この選択肢にある全てのこと
当事者と普通に接することです。
学校授業での取り上げは小学生低学年には特にあまり好ましくないとします。
具体的な支援、専門家によるカウンセリングの機会を作ったり見守りや併走してアドバイスできる人材の育成等

刑事司法関係機関（刑務所、少年院、保護観察所等）による対応に連携して、市ができることを。
就職できる会社を増やす

【7】再犯防止に協力する民間協力者として知っているものをあげてください。（複数回答可）

保護司	123
更生保護女性会	9
協力雇用主	16
BBS会	2
更生保護施設	70
いずれも知らない	52
分からない	0

【8】計画全体を通して、何かご意見がありましたらお聞かせください。（自由記述）

※いただいた御意見については、文章がわかりやすくなるように整理しているほか、誤字の修正等をさせていただきます。

（1）計画全般に関すること

①肯定的な意見

犯罪者の更生は重要なことであり、可能なことであれば協力したいと思う。
今回は全く知らない世界の事だった。最初はちょっと怖い気もしたが、更生してもらえたら協力していきたいと思う。
「犯罪をした人」といっても、内容や人物によっては支援の意味が無いこともあると思う一括りにしないで、情状酌量の余地のある犯罪であるとか、精神疾患が無く更正の可能性の高い人に支援をするのであれば、応援したいと思う。

②否定的な意見

多くの人は罪を犯さずに一生を過ごす。罪を犯す人はごく一部。そのうち半分くらいが再び罪を犯す。となれば、全体に対する再犯者の割合はもっと少なくなる。その少ない母数に対して予算であったり時間を使うことが得策とは思えない。国外追放でもすればよいと思う。
犯罪者には罪を償った後も相應の社会的制裁が必要。犯罪者に支援する資金をもっと他の子育て世代に使うべき。犯罪をする人の心理は一生変わらないことがほとんどであり、そこに資金を使うのは納得がいかない。

③計画の推進について

再犯すると、再犯しない人の状況をよく分析し、再犯しないモデルを確立することが望ましい。
刑事司法関係機関から情報提供を受け、支援につながった人の割合の目標が逆ではないか？
再犯防止の内容や分析の精査が足りない。再犯防止のあり方に対する市民の見方や専門家の取り組みの現状と課題をまず深掘すべき。
もっともな計画が記載されているが、実施、展開は難しそうである。

(2) 取組の柱1「つなぎ・見守る」に関すること

④就労に関する支援について

会社の経営者に理解してもらって、就職先を増やす。

再就職できる場を多く提供すると良い。

⑤本人に寄り添った支援について

犯罪者の再犯率が高いのは、出所後の生活が不安定なことや、世間の人たちの思いやりの無さだと思う。実際そのような人に出くわすと避けて通ってしまう。やむを得ないと思うが、その事が結局再犯を繰り返してしまう。保護司や行政が思いやりを持って、市民の人達と一緒にあって出所者の安定を支える事が出来たら再犯率は下がるのではないかな。

他人とのかかわりあいの希薄さが犯罪へと走るきっかけになっていると思う。再犯防止として、いつでも気軽に相談できる相手の確保と、その存在を知ってもらうことが犯罪抑制や再犯防止につながると思います。

親身になって、相談できる組織や人材を確保するべきだと思う。孤立させない活動が必要と思う。

社会全体に周知させることより、その人達の生活圏内、身の回りの人々へどんな支援や理解、協力が必要なのかを具体的に伝える。それについて周りの人の意見を本人に伝える。それは、双方にとって必要なことだと思う。

罪を犯した人を孤立させるのは更なる犯罪を生むことになるという点はその通りだと思う。人との繋がりが犯罪抑制力になると思う。

つなぎ・支える・理解する、どれも必要なことだと思うが、中でも「支える」が重要だと思う。どれだけ理解しても、支えなければ当事者に届かないと思うからである。再犯者にならず、一人の市民として日常生活を送ることが出来る環境を提供することが必要だと思う。

資料を見ると再犯率が高いので、何年か気にかけてあげる人が必要だと感じた。

定期的にフォローすることが大切だと思う。

再犯をしないように生きていくために、助けてあげる場所も必要だと思う。一人一人の事情が異なるので、個々に合わせた支援ができるようになると良いと思う。

犯罪の未然防止に全力を尽くすのがベストと考える。普段よりのコミュニケーションが、異変を感じ取れる身近な手段でないかと考える。中学生はもちろん、小学生でも路上での通行時によく挨拶をする事がある。自分からするが子供の方からよく挨拶の言葉がかけられる。気分が良いし異変を感じ取れるチャンスでもあると思う。

再発防止の活動については、一人では大したことはできそうにないが、支援団体組織としての活動が成果を上げれる方法ではと思う。自分も組織の一委員としては大いに貢献する事に人力する事を惜しまない気持ちでいっぱいである。

当事者が無職ということは、その家族も困っている状態にあるのではないかなと思う。生活が不安定だから罪を犯すのか、職に就くこと自体が難しいから（その知的能力も含め）罪を犯すことについてハードルが低いのか、当事者だけをケアするのではなくその家族全体をフォローできるといいと思う。

⑥生活困窮に関する支援

生活に困窮していなければ、犯罪・再犯を起こす人も減少する。困窮者が分かりやすい・活用しやすい生活補助があると良い。
罪を犯すのは、社会の生きにくさを表しているように思う。格差社会なので、親が貧困だとその子供は小さい時から我慢の生活をしているのかなと思う。せめて住むところと食事、衣服は不自由しなくてもいい世の中になってほしい。
貧困から抜け出せず、生きる為に犯罪を犯す人もいる。そういう人には、仕事や家など生活が安定するようにある程度の支援は必要だと思う。

⑦専門機関による支援

再犯防止への対策として最も重要なことは科学的な見地に基づくこと、特に医学的なアプローチが欠かせないと思う。素人では対処できない分野については行政で体制を整備していただきたいと思う。
市民レベルより、専門家の意見がより重要と考える。
専門家の人を増やす。
市民は当事者とは普通に接することと思う。更生については、保護司等のプロの支援に委ねるべきと思う。
昔は生活苦から『泥棒にも一分の理』があると言われていた。生活が改善したら再犯が無くなった。生活様式の多様化の現代において再犯率は6割を超える。もう、『泥棒にも1分の理』では説明が付きにくい複雑な事情が絡み合って罪を犯す。再犯防止策は就労・福祉・医療・住居・保健と多岐に渡り対処しなければならない。やはり、地域コミュニティでは限界があり警察や行政に頼るのが一番良い。罪を犯した人を再び罪を起こさせないように、市役所の特定部署だけでは解決は困難です。市役所の各部署を横断的に専門チームを作り取り組む必要がある。
周りの理解も大切と思うが、もっと刑期中に一人一人に合わせた対応ができるといいと思う。
現状の中に、刑法犯の検挙者数、検挙者中の再犯者数は毎年減少しているが、再犯者率は増加傾向ということですが、一度罪を犯す人は何度でも同じことを繰り返すんだと思います。刑務所での更生が重要な役割を持つのではないかと思います。
再犯率が高い。ということを良く聞きます。しっかり更生させて社会に戻ってこられる仕組みを作って欲しい。中途半端に戻って来るから、繰り返すような気がします。

(3) 取組の柱2「支える」に関すること

⑧民間協力者への支援

再犯防止に協力する民間協力者に対する表彰の機会を増やすこと。その人の税金を安くする。

(4) 取組の柱3「理解する」に関すること

⑨市民への周知・啓発

再犯防止の周知を強めると私のような人にも伝わるかと思う。

まだまだPR不足でこの事業が見えない。もっと啓発事業に力を入れるべきである。

市としてこのような取り組みをしていることを知らなかった。大方の市民がそうだと思うので（今回のアンケート自体が、『突拍子もない』という印象を受けた。申し訳ありませんが。）まずは認知度を高めることが必要だと思う。

身近で起きてない事なので実感がわからないため想像でしかイメージができないので、もっと身近にふれてイメージがつくと市民の人達の考え方や受け入れ方も変わってくると思う。もっと発信をしてもらえたらいい。

分からないことを、いい加減にやってみても良くないので情報をしっかり発信して、周りの人がどうすべきかちゃんと把握しなければならないと思う。

わたしたちの税金を使う場合に、市民の理解を得られるような活動も必要になってくると思う。市民の理解を得られないまま税金を使うと、「理解する」ことが出来ず、当事者にとって住みづらいことにつながってしまう気がする。

学校で講習をする。

社会全体のリテラシーの向上から図るべきではないかと、漠然と感じる。

罪を犯した人がどうしてそういうことをするに至ったか、よく分からないし、民間で再犯防止の活動をすれば犯罪が減るのか。再犯というのはよくあるのか、そういったことが全く分からない。

社会全体にとって、「再犯防止」策を講じることが大変重要な課題であることは理解できるが、どうすればよいのか？更には、具体的に自分がどのようにかわれるのか？全くイメージできない。

犯罪をした人への支援は必要であるし、再犯を防止することが私たちの安全な生活につながると理解できるが、身近なことに捉えるのは難しい。

大切なことだと思うが、どうすれば良いのかわからない。

あまり知らないし進んで知ろうとは思わない。

どれだけの出所者が豊田市にいるかわからない。現状を知りたい。

(5) その他

㊦被害者への支援

犯罪をした人以上に、その家族、またそれ以上に、被害者とその家族への支援の方に重きをおいてはと思う。
日本は加害者天国だと揶揄する意見があるように、加害者の更生も必要だが併せて被害者への配慮も考えていかねばならない。被害者が肩身の狭い思いをして生きていくのはおかしいと思うから。
再犯防止は重要だと思うが、被害者感情の配慮が必要ではないか。
再犯防止の活動は必要なこととは理解できるものの、過保護になることが心配。被害者に対するケアも同時に考えることが必要だと思う。
罪を犯した人の立ち直りも必要だが、被害者の立ち直りがもっと必要ではないかと思う。被害者の立ち直りに関しても市で支援して欲しいと思う。

㊦その他

大切な事だとは重々承知していますが、今の時代、逆恨みや個人情報をネットで晒すとかがとて怖いので、極力関わりたくない。というのが正直な気持ち。
自分には知識がないので偏見かもしれないが、軽い気持ちで出来る支援ではないと思うし危険な目に遭うかもしれないと思ってしまう。
再犯防止は大切な事だと思うが、自分が関わるのは避けたい気持ちがある。
難しい問題。多分今までのアンケートの中で一番記述が難しい。とりあえず添付資料を拝読して、まずは勉強から。ちょっと意見を出すのは今回は遠慮しておく。
犯罪者と関わるのは正直怖い。しかし反省しているのであれば引っぱり上げないと、さらなる深みに入ってしまう可能性があると思うとちょっと怖く感じる。
再犯防止に協力したい気持ちはあるが、犯罪内容によっては相手を信用しきれない事が虚しい。
犯罪者に対して、一体何をすればいいのか全く分からない。一度罪を犯した人は、再犯の可能性があると思う。対応の仕方は、全く知識のない人が関わってもいいのかどうか？大変難しい案件だと思う。それまで生きてくる中で培った人間性を矯正するのはかなり難しい。そう考えると、どう関わればよいのが悩ましい。
犯罪者の立ち直りに協力したくない考えだが、よく読んで考え直したい。
犯罪もいろいろあるので、痴漢等、女性や子供に対する性的犯罪を犯した人には接触することもしたくない。そう考える人は多いと思う。難しいことだと思う。
協力したい気持ちがあっても、どうやって協力したらよいかわからない人が多いと思う。恐怖もある。snsや広報も一部のしか見ない。周りにそういう人がいない。再犯するんじゃないかと思う疑念の心がある。偏見の目は少なからず絶対にあると思う。
犯罪をしても教育を受けることで再犯を防ぐことができるなら良いが、すべての人ができるわけではないと思うので、関わり方は難しい。
ニュースなどで見聞きするのがほとんどで、身近に犯罪者・再犯防止を感じたことがないので、よくわかっていないが、市民全員が安全・安心に生活ができるような社会が必要。
コロナ禍で様々な事を我慢している幼児、小学生が数年して犯罪を犯さないか心配。身近な事として、自分の子どもやまわりの子を見て、まずは犯罪が起きないことを願う。
添付資料の中でのデータを見て、大方の数値が50パーセント近くであり県・全国とのデータとほぼ同じくらいであることに驚きと恐怖を改めて感じしっかりと防衛体制も重要であると痛感した。
テレビなどで観ているときちんと出所した後の監視というか行動把握が出来ない人もあるような気がする。再犯防止と言っても人の心の中を覗く事が出来ないのどこに本当の更正があるのか不安。その部分をどうやって判断していくかだと思う。
再犯率が高い傾向にあるので、GPSを付けるなど再犯抑止につながることも併せてやってもらい、市民の安全が脅かされないようにしてほしい。
再犯防止よりも初犯を防止することが大切であると考えている。そのそも犯罪をしないように学校教育等でしっかり指導して初犯抑止に努めてほしい。
再犯の防止より、心神耗弱とか責任能力がないとして無罪や収監されない犯罪者の在り方のほうが再犯の恐れが心配。